

令和7年度環四国サイクリングプロジェクト（愛媛・ゆめしま海道編）活動報告

（令和7年度愛媛大学国際連携 学生海外短期派遣・受入プログラム支援事業採択事業、愛媛県後援事業）

【事業概要・目的】

日本と台湾の学生が共に「自転車」というコンテンツを用いて地域の歴史・文化等に触れるフィールドワークを行い、日台間の異同等に目を向けつつ、実社会において有用となるグローバルな感覚や、協働を促進するコミュニケーション・リーダーシップのあり方について実践的に学ぶこと目的とした事業。また、産学官連携事業として、愛媛県が推進する「自転車新文化」を両国の学生たちが広く発信することも目的の一つとしている。今年で8年目を迎える。プログラムは、オンラインによる事前の国際交流を1回実施した後、「愛媛・ゆめしま海道編」としてリアルな国際交流と、地域の歴史・文化に直接触れるとともに、SDGsの活動を通じて地域への貢献を目指した活動内容にしており、両国学生間の国を超えた「深いつながり」を築く機会とする。

【日時・方法】

（第一回）令和7年7月8日（火） 方法：オンライン（ZOOM接続による同期型）／自宅等からの接続

（第二回）令和7年8月7日（木）～10日（日） 場所：愛媛県越智郡上島町

【実施体制】

主催：愛媛大学教育・学生支援機構準正課教育ユニット、国立高雄科技大学（台湾・国）

後援：愛媛県、越智郡上島町、愛媛大学校友会

協力：愛媛大学SDGs推進室、一般社団法人しまなみジャパン、（株）Kai Works、弓削商船高等専門学校、みんなのおそう島実行委員会、上島町商工会議所、古民家ゲストハウス（弓削の宿、Common宿みよいじん、汐見の家、ゲストハウスみちしお、ゲストハウスとこのま、The Nomad Inn yugejima）、寿司居酒屋「ととや」、ゆげしまダイニング彩、お好み焼き西野、焼き肉どんぐり、しまでCafé、ミスティー亀井、kitchen313kamiyuge、Believer、ログハウス弓削、

学生リーダー：山本龍弥（工学部3年） 学生サブリーダー：吉田雅咲（工学部3年）、日隈心奏（工学部2年）

実施責任担当教員：仲道雅輝（愛媛大学教育・学生支援機構准教授）、

許宏徳（国立高雄科技大学准教授、愛媛大学客員教授）

【参加者数】

合計：76名（学生53名）

愛媛大学生：19名（法文4名、工学8名、理学1名、農学4名、教育2名）

（1年：8名、2年：3名、3年：7名、4年：1名）

国立高雄科技大学生：14名（1年：1名、2年：3名、3年：3名、4年：5名、修士：2名）

弓削商船高等専門学校生：18名 弓削高等学校生：2名

教職員及び関係者：23名（愛媛大学5名、国立高雄科技大学2名、しまなみジャパン1名、

KaiWorks株式1名、愛媛県5名、上島町6名、弓削商船高専3名）

＜特別ゲスト＞

中村時広愛媛県知事、上村俊之上島町長、内田誠弓削商船高等専門学校長、仁科弘重愛媛大学長、

八尋秀典愛媛大学理事・副学長・教育・学生支援機構長に、ご参加いただきました。（上記関係者に含めています）

【学習成果】

本プロジェクトでは、対面での交流をさらに深くすることをねらって、事前にオンラインでの交流を行い、日台混合チームでの自己紹介や両国の文化を紹介し合うとともに、サイクリングで走行するルートの検討を行うなど、二段階での実施構成とした。

対面での初日は、上島町で、日台混合チームに分かれ、町内をめぐり、弓削商船高専生や弓削高等学校生とともに、ビーチクリーン活動を通じて国際交流を行った。

2日目は、中村時広愛媛県知事や上村俊之上島町長にご参加いただき、学生らとともにゆめしま海道でのサイクリングを行い、地域の自然や文化に触れた。また、サイクリング後には、中村知事より、これまでの自転車新文化の活動や日台の交流事業など

についてご講演いただくとともに、上村俊之上島町長、内田誠弓削商船高等専門学校長、仁科弘重愛媛大学長、八尋秀典愛媛大学理事・副学長・教育・学生支援機構長から、未来を担う学生らへのエールをいただいた。さらに、OGとして、本プロジェクト（2018年度）の初代学生リーダーを務め、現在は上島町でインバウンド向けのツアーガイドとして活躍している澤田奈津季さん（社会共創学部／2021年度卒業）に、上島町の魅力や見どころなどをご紹介いただき、学生にとって、歴代の先輩と交流する貴重な機会となった。

同日午後後半に、日台交流セミナーを日台学生が企画し、国による成人年齢等の違いやそれに伴う法律上の違い、文化の異同等についての交流が行われた。許先生からの「地政学」について講義を聞く機会も設けられ、国の違いによる文化や歴史に影響を及ぼしている事柄についても学ぶ機会となった。

3日目は、上島町内（弓削島・佐島・生口島・岩城島の4島）をサイクリングで巡り、SUP体験や岩城橋の坂をチームメンバーで声を掛け合いながら力を合わせて走り切ったという経験から、日台混合チームでのチーム一丸となる様子が伺えた。

最終日の成果発表会では、プロジェクトの成果として、「日本と台湾の違いを知ることで自分が当たり前だと思っていたことは当たり前ではないのだ」ということについて実感を通してより理解を深める事ができた、「普段は会えないような学生や先生方、知事、町長、地域の方々とお話しすることができた」などの感想が発表された。参加者は、あらためて、対面で経験を共にすることの楽しさや意義を感じた様子であった。また、終了後も、台湾国立高雄科技大学学生らと、SNS上で写真のやり取りを行うなどの継続した交流が行われ、来年の夏には、愛媛・南予サイクリングプロジェクトで会うことを約束し散会した。本プロジェクトは、愛媛県が推進する「自転車新文化」を広く発信することも目的の一つとしており、参加学生からは、地域の歴史・文化等への関心が高まり、サイクリングを通しての自転車新文化の裾野の広がりを感じる機会にもなっている。

今回の開催は、学内外への広報にもつながり、愛媛県知事、上島町長をはじめ、行政機関や地域の住民の方々、愛媛県をフィールドとした愛媛大学生のアクティブな活動を知っていただける機会となった。



全体での集合写真



中村時広愛媛県知事とのサイクリングの様子



ゆめしま海道での集合写真



中村時広愛媛県知事との昼食交流の様子



中村時広愛媛県知事の講演の様子



サイクリングスタート前の集合写真

(上村上島町長・中村愛媛県知事・八尋秀典愛媛大学副学長)



仁科弘重愛媛大学長から参加学生への激励の言葉



弓削商船高等専門学校とのビーチクリーン活動（みんなのおそう島）集合写真



弓削商船の森先生よりマイクロプラスチックの説明



ビーチクリーン活動の様子





各チームからの成果発表の様子



完走証授与後の集合写真

PRESS RELEASE

愛媛大学
Ehime University

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

令和7年7月25日
愛媛大学

理系四国サイクリングプロジェクト × SDGs ピーチクリーン アクション 国際交流企画「愛媛・ゆめしま海道選」

愛媛大学・国立福岡科技大学・越前館上島町・弓削商船高等専門学校

本企画は、愛媛県と連携・協力いたしている「第四回国際サイクリングプロジェクト」の一環として、愛媛大学と台湾国立福岡科技大学との学生が、サイクリングを通じて長い歴史の文化を理解深める目的で実施した目的で実施した国際交流企画となっています。また、実行したコースは愛媛県を走る、走る前より楽しめる「サイクリング×SDGs ピーチクリーン・アクション」をめざして実施されました。

本プロジェクトは、始動から順次して愛媛県を走る、走る前より楽しめる「ハピネスツーリズム」で、愛媛県の推進する「四国一周」と名づけた、かわい子の顔写真を記入する「四国一周」用紙です「環四島」の姉妹校をイメージして「環四島」と名づけました。

このたび、学生たちの長い間の願い、プロジェクト開始年次にして愛媛県の村崎知恵に「参加したい」とお問い合わせ下さいました。当の8月10日は、午前中に自ら学生たちからゆき通達をサクシエンジン、地図編集、そして駕者への応援メッセージなどを手書きで提出頂きました。

「環四島サイクリングプロジェクト」は、自転車というコミュニケーションツールで、リーダーシップの取り組みによって国際的つながりをつくることを目的としており、4年間で各県を走ることで「国四一周」を達成するまでの間、対外的な交流の効果を高めながら、事務にオンラインでデータ入力しながらプロジェクト内を充実させていくとともに、よりよい相性が生まれるよう成長されています。このプロジェクトでは、港につながる地域の学生が生き生きと活動し、新しい仲間を超えて「楽しいつながり」を築いています。

つまましくは、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

記

【日】令和7年8月7日(木)～10日(日)

【場】愛媛県・越前館上島町

【参加者】愛媛大学20名、国立福岡科技大学生14名、弓削商船高等専門学校10名

（一般社団法人による協賛）Karl Works株式会社、弓削商船高等専門学校、

Karl Works株式会社、弓削商船高等専門学校、Karl Works株式会社

【内】第1回羽田空港

【主】愛媛大学、学生たる愛媛県民、講習教育講師二園、国立福岡科技大学(台湾)

【後】愛媛県、越前館上島町、愛媛大学、愛媛大学 SDGs 推進室、

【運営】一般社団法人 なまなじゅーん、Karl Works 株式会社、弓削商船高等専門学校、

おう島実業委員会、ほか

■取材いただける場合は、8月6日(火)までに下記問合せ先へメールにてご連絡ください。

参加する学生が、インク büne に
お答えいたします。

※送付料金 5枚(本紙を含む)

本紙に関する問合せ先

愛媛大学学長、学生支援課、講習教育ユニット

准教授、仲道 雄輝

Mail: norikomichi.masaki.ehime-u.ac.jp

7.10

「3D」を生み出し、人を見て、ダイナミティでグローバルな社会を構築する

プレスリース 1

プレスリリース（フライヤー）

科技大学の学生たちが自転車を通じて交流を深め、愛媛大と台湾・高雄プロジェクト「Nゆめしま」が、上島町で行われた。参加者が山村時広知事らと町内をサイクリングし、地域の自然や文化に触れた。愛媛と台湾で盛んな自転車を生かし、学生に国際交流やコミュニケーション機能などを磨いてもらおうと両大学が2018年から共催している。四国各県を持ち回りで毎年巡り、今年は同町を舞台に7～10日の行程で実施。愛媛大19人が高専科技大生14人がフィールドワークに取り組んだ。

日台の大学生 自転車で交流

上島巡り知事講演も

8日は中村知事や上
村俊之町長をゲストに
招き、生名島から宮前
町まで約10キロをサイクリング。
学生たちは会話や記念撮影を楽しみ
ながらペダルをこぎ進
め、ゴールのせとうち
交流館（同町役場下）
削りまで走り切った。

新演文化の推進がテーマ
高雄科技大4年謝謝
秦さん(22)は、互いの
国への文化を学べるのか
面白い」と充実した表
情。愛媛大2年平岡愛
理さん(19)は、「言語の
違いに関係なく心で通
じ合う仲間を探していた
い」と話した。
(石田一真)



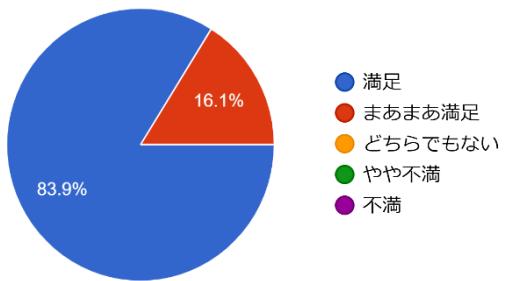
上島町でサイクリングする愛媛大
高雄科技大の学生たち

「日台の大学生 自転車で交流-上島巡り知事講演も-」
2025年8月16日付愛媛新聞
〔掲載許可番号:d20250826-02〕
「愛媛新聞社提供」

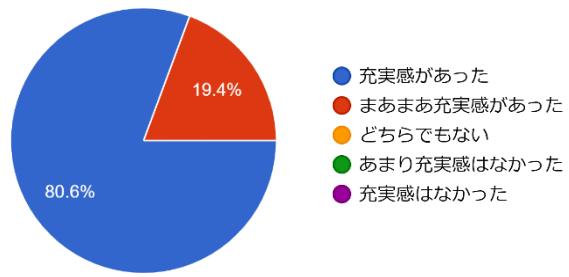
アンケート結果

愛媛大学・国立高雄科技大学の参加者 33 名（回答者数：31 回収率 93.9%）

1. 満足度 (n:31)



2. 充実感 (n:31)



3. プロジェクトに関して、意見や感想（自由記述：抜粋）

- | | |
|---|--|
| 1 | これからも大切にしたいと思える仲間ができたこと。自分が以前よりも前のめりに動くができるようになったこと。普段は会えないような学生や先生方、知事、町長、地域の方々とお話しすることができたこと。 |
| 2 | 同じ世代で、国は違えど、感情を共有することができる。過ごす時間が増えて、苦楽を共にして、助け合えて、支え合えたことが本当に嬉しかった。 |
| 3 | 宿泊を共にすることを通して、生活の中の文化の異同を見つけることだできた。 |
| 4 | 知事來演講有講到自行車道的部分，這部分有變得更加理解！（知事の講演では自転車走行レーンについての内容があり、とても理解できました！ |
| 5 | 日本と台湾の違いを知ることで自分が当たり前だと思っていたことは当たり前ではないのだということについて実感を通してより理解を深める事ができた。 |
| 6 | 自分から考えて行動するという経験を積むことが出来たこと。自分は今まで考えてばかりで何も行動にうつせなかつたのが、今回の経験を得て、自分から行動することに対してもっと自信を持てるようになった。これからはもっと積極的に行くことを心がけたい。 |
| 7 | チームで隊列を組んでサイクリングすることは、1人で走る（サイクリング）よりも、みんなで力を合わせることで、楽に遠くに行ける。また、同じ景色や体験を共有することができるため、良かった。 |
| 8 | 自分の世界観がもっと広がりました。そして、台湾に友達が沢山できた。台湾だけでなく愛媛大学の先輩たちとも仲良くなれた。 |

| | |
|----|---|
| 9 | サイクリングや台湾の魅力を身をもって実感することができました。また、上島町などの都市から離れた地域での暖かく、密接なコミュニティに少しだけでも混ざることが出来たため、自然を全身で感じることが出来る地域への訪問やサイクリングはとても心を豊かにし、生きがいを感じさせてくれるものだと感じました。さらに、今まで日本以外への国に少し興味があったのですが、どのような国でどのような文化、自然が根付いているのかは深くは知りませんでした。しかし、台湾の方との交流で日本の魅力や文化、自然をしたため、国際的なプログラムへの参加の有意義性を知れた。 |
| 10 | 初めてのサイクリングで、とても楽しかったです。また、色々な学生と関われたのもとてもよかったです。特に、宿がグループごとに分かれていたのは、少人数の方が関わりやすかった私にとっては、とても嬉しく、色々話すことができました。ありがとうございました。 |

以上